



令和6年度 山形市立大郷小学校

学校教育目標と目指す子供像について

I 学校教育目標

『自立と共生 誇りと信頼』

(1) 「自立」とは…

◇今、学校教育に求められる「自立」について

- ・これまで学校教育では、「主体的」「自主的」あるいは「自発的」という言葉が大切にされ、自分の判断による行動や、自分から学びに向かう意欲や興味・関心が重要視された。

⇒将来の変化の激しい、予測できない時代を生き抜くためには、「自立した学習者」として学び続け、持続可能な社会の担い手となることが必要である。

⇒教授型、知識の詰め込み指導ではなく、「学ぶ意義」「学ぶ必要感」を感じながら取り組み、「学ぶ成果」「学ぶ喜び」を小学校で体感することが、「学び続ける」原動力となる。

⇒「自立した学習者」となるためには、「主体的・対話的で深い学び」が実現した問題解決的な学習や探究型の学習は不可欠であり、指導者は授業改善に日々努めなければならない。

◇《自立》学び続ける学校 ⇒ 『子供も教員も学び続ける学校』

(2) 「共生」とは…

◇「共生社会」実現の一員としての学びや心の成長を支える

- ・全ての人がお互いの人権（私たちが幸福に暮らしていくための権利）や尊厳（その人の人格を尊いものと認めて敬うこと）を大切にし、支え合い、誰もが生き生きとした人生を送ることができる社会を「共生社会」という。

⇒異なる立場や考え、個性や特徴、価値観を認め合い、互いに支え合い、学び合う。

⇒自他の「いのち」を守り、大切にする。

⇒いのち輝く生活を目指して主体的に取り組む

◇《共生》地域と共に歩む学校 ⇒ 『自他のいのちを大切に作る学校』

(3) 「誇り」とは…

◇地域で学び、地域を題材とした学習を通して、大郷の良さを理解し、大郷を愛する心を育てる

⇒地域で学んだり、地域の題材で学習したりする機会は多くあるが、先人の苦労や思いや願いに触れることはとても重要である。

⇒小学生として何ができるのか、これから何をしていく必要があるのか、将来何をしたいのかなど、地域の一員としての考えを持つことや、地域の発展に何かできることはないかななどの「発展的な課題」にも挑戦させ、意識の高揚を図る。

◇《誇り》確かな学力を育む学校 ⇒ 『地域を愛し、誇りに作る学校』

※近い将来は「地域を担う人材を育成する学校」的なものに

(4)「信頼」とは…

◇誰一人取り残されず、個々の個性を尊重する学びを実現することで生まれる頑強な絆

⇒先生方が常に研鑽を積み、個別最適な学習や教育 DX を実現する。

⇒「大郷小が楽しい」「大郷小で学ぶと力がつく」の実現と継続。

⇒保護者の皆様、地域の皆様との共通理解と共通実践によって、共に子供の学びを支える。

⇒学校への理解が進み、安心・安全な学校として認識される

…学校の姿勢を堅持し、理解を得ることによって、それぞれのお立場で学校を支えていただくことができる「チーム学校」へ

◇《信頼》多様性にかかれた学校 ⇒ 『応援され、支援される学校』

※「応援」は「気持ち」、「支援」は行為や資金的にも

2 目指す子供像

『**こころゆたかに かしこく たくましく**』

(1)「こころゆたか」とは

①「豊かな心」とは何か

- 美しいものや自然に感動する心などの柔らかな感性
- 生命を大切にし、人権を尊重する心などの基本的な倫理観
- 自立心、自己抑制力、責任感 ○正義感や公正さを重んじる心
- 他人を思いやる心や社会貢献の精神 ○郷土や身近な地域を愛する心
- 他者との共生や異質なものへの寛容

各学年の到達目標や発達段階に合わせて共に、児童個々に応じる配慮が必要。

②小学校で育てたいこと

◇目指す児童像

「基本的な生活習慣、善悪の判断、自主性、協力し助け合う態度、自立心などを身につけた児童」

☆大郷小の子供たちにどんな姿を求めるのか

『正しいことは正しい』『美しいものは美しい』『ダメなことはダメ』

『全力で取り組む姿はカッコイイ』『みんなで作ると楽しい』

『自分には居場所がある』『大郷小での毎日が楽しい』

(2)「かしこく」とは

◇子供主体の学びの実現による確かな学力の育成

・資質・能力を高める「主体的・対話的で深い学び」の具現化に向けた実践研究

◇「子供主体の学び」の日常化

・「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の具現化に向けた実践研究

・子供主体の学びとカリキュラムマネジメントの連動

・子供の育ちに繋がる教師の支援についての研究

☆大郷小の子供たちにどんな姿を求めるのか

『わかった』『できた』『もっと知りたい』『もっと調べたい』
『前に勉強したことと関係がありそう』『確かめてみよう』
『自分の考えについて、他の人と話してみたい』『自分の発表を聴いて欲しい』
『自分でも調べてみよう』『実際に調査や体験をしてみたい』
『仲間と一緒に学習したからここまでできた』『勉強って楽しい』

(3) 「たくましく」とは

◇「子供主体の学び」

- ・運動会・大郷っ子発表会・6年生を送る会等の行事・縦割り活動・委員会活動（係活動）、生活科、総合的な学習
- ⇒子供の手で「くらし」を創造できるよう支援する。
- ・全校縦割宿泊学習 ⇒ 本気で交流する縦割班活動による貴重な体験学習
 - ・居心地のよい学級 ⇒ 子供たちの手で創るよう支援する。
 - ・子供が子供に思いや考えを伝える場面の充実
 - ・子供自らが思考し、協働する場面の充実

☆大郷小の子供たちにどんな姿を求めるのか

『みんなで取り組むと楽しい』『みんなで取り組んだから、自分もここまでできた』
『上級生になったから、自分がリーダーとしてがんばる』『自分たちの生活をもっと良くしたい』
『よりよい生活のためには何から取り組んだらいいのだろうか』
『取り組みの成果と課題は何だろうか』
『自分もやってみたい』『来年はリーダーになってみたい』
『リーダーにはなれないけど、そのフォローやサポートならできる』

3 「ウェルビーイングな学校づくり」をすすめたい

◇なぜ今なのか

…ウェルビーイングはその SDGs の次なるグローバルゴールとして

「ポスト SDGs」とも呼ばれ、急速に注目を集めるようになりました。

◇TDL の経営方針は「ゲストにとってもキャストにとってもウェルビーイング」

◇教育のウェルビーイング

…OECD は、各国の教育改革に取り組み、2030 年を生きる子どもたちの学習の枠組み「ラーニング・コンパス 2030」を提唱。将来予測が困難な時代に、「教育の目的は、個人のウェルビーイングと社会のウェルビーイングの 2 つを実現することである」と提示した。

◇学校の中のウェルビーイング

- ・「幸せ・豊かさ・満足感」を子供・教職員・保護者・地域の全員が感じられるために、それが持続するために何ができるのか、何をしていくのかを全員が意識し、できるところから始めていくことが大切である。